

かんがえる



**Q**

お金の為替は誰が決めています、なぜ毎日変わるの？ 円安と円高とは？

(千葉県、小5)

**A**

「為替」とは、日本のお金と外国のお金を交換するとき使う言葉です。外国のお金(通貨)は、アメリカのドル、ヨーロッパ連合(EU)のユーロ、イギリスのポンドなど、たくさんあります。「1ドル=147円」「1ユーロ=160円」「1ポンド=190円」というふうに、ある国の通貨と別の国の通貨を交換するときの比率を「為替相場」といいます。

国もありませんが、世界中の国々は、それぞれ違う通貨を使っています。そのため、外国との貿易には通貨を交換する必要があります。そのときに為替相場が大きく関係してくる必要があります。そのときに為替相場は誰かが勝手に決めているわけではなく、世界中にある外国為替市場で決まっています。特に取引が集中する都市の名前を取って、イギリスであれば「ロンドン外国為替市場」、アメリカは「ニューヨーク外国為替市場」のバランスで決まります。

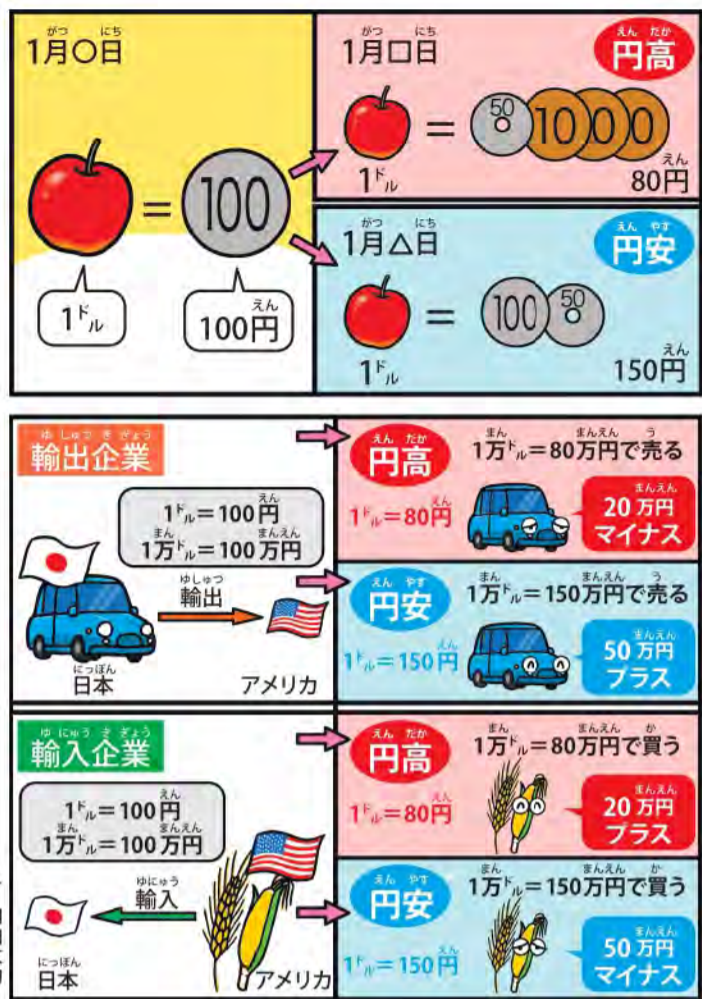
市場で行われる為替取引で決まっています。特に取引が集中する都市の名前を取って、イギリスであれば「ロンドン外国為替市場」、アメリカは「ニューヨーク外国為替市場」のバランスで決まっています。

毎日小学生新聞  
疑問氷解係

100-8051

身の回りの素朴な疑問をお待ちしています。はがきに書いて、〒100-8051(住所はいりません)毎日小学生新聞「疑問氷解」係へお寄せください。メールなど連絡先もご記載ください。

# 世界中の市場取引で「安」「高」は交換比率



え・内山大助

「安」「高」は交換比率

場、日本は「東京外国為替市場」などと呼ばれています。取引は世界各国のさまざまな場所で行われていて、為替相場は世界各地で24時間休むことなく動いています。

例えば、きのうは1ドル100円だったとします。これが今日になって1ドル150円になった場合、100円で買った1ドルのリンゴが、150円ないと買えないことになります。この状態が「円安」

例えば、きのうは1ドル100円だったとします。これが今日になって1ドル150円になった場合、100円で買った1ドルのリンゴが、150円ないと買えないことになります。この状態が「円安」

寒太先生評

「お正月」にみんなでおもちを焼いて食べます。あみから「ブクッ」とふくらみ、とてもおいしそうです。下五の「しろいこぶ」がよかったですよ。

● 作品を募集 ●

はがきに、あなたの作品と①住所②名前(ふりがなも)③電話番号④学校名(同)・学年を書いて、〒100-8051(住所不要)毎日小学生新聞「しろいこぶ」係へ。作品は添削することがあり、電子媒体にも掲載します。投稿時の学年を掲載しています。

△2月の季語▽節分、豆まき、立春、早春、春めく、春一番、受験、バレンタイン、雪解け、ロウバイ、梅、ツバキ、クロッカス、猫の恋、うぐいす

円を売りたい人よりも円を欲しい人が増えれば、円の相場は上昇し「円高」となります。逆に、円を売りたい人よりも円を欲しい人が減れば、円の相場は下がり「円安」になります。

お正月 おもちがブクッ しろいこぶ

東京都杉並区立済美小1年 山本暁士